

平成23年度 京丹波町和知支所屋根改修工事

図面番号	図面名称	縮尺
A - 0 1	表紙・図面リスト	——
A - 0 2	建築改修工事特記仕様書-1	——
A - 0 3	建築改修工事特記仕様書-2	——
A - 0 4	附近見取図・配置図	1/5,000 1/300
A - 0 5	1階平面図	1/200
A - 0 6	2階平面図兼仮設計画図	1/200
A - 0 7	中2階平面図（現況図・改修図）	1/250
A - 0 8	屋根伏図（現況図・改修図）	1/250
A - 0 9	断面図	1/200
A - 1 0	矩計図（現況図・改修図）	1/50
A - 1 1	矩計図	1/50
A - 1 2	防水納まり詳細図	1/50 1/20 1/10

京丹波町							主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次	施設名 京丹波町和知支所	図名 表紙・図面リスト	図面 12枚の内
										11年 06月 日	工事名 屋根改修工事	縮尺 -	No. A-01

建築改修工事特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 京都府船井郡京丹波町本庄 地内

2. 敷地面積 3,278.24 m²

棟名	構造	階数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備考
和知支所	鉄筋コンクリート造	地上階,地下階	1,409.236m ²	2,230.120m ²	

4. その他
 ・屋根防水改修
 ・内部天井改修

【2】 適用範囲

現場説明事項書(質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成19年版)をいう。(以下、これを「改修標準」という。)本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標準」の適用を受けるものとする。

【3】 工事区分

設計図書による。別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

- 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標準」のほか別記の適用基準による。
- 項目は、番号に 印の付いたものを適用する。
- 特記事項は、印の付いたものを適用する。印の付かない場合は、印の付いたものを適用する。印と 印の付いた場合は、共に適用する。印が抹消された場合は、印のみ適用する。
- 項目及び特記事項に記載の() 内表示番号は「改修標準」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①適用基準等	公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 平成19年版 (監修:国土交通省) 建築工事標準詳細図 平成17年版 (監修:国土交通省) 敷地調査共通仕様書 平成11年版 (監修:建設大臣) 建築鉄骨設計基準 平成10年版 (監修:建設大臣) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 平成19年版 (監修:国土交通省) 木造建築工事標準仕様書 平成16年版 (監修:国土交通省) 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) 平成19年版 (監修:国土交通省) 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) 平成19年版 (監修:国土交通省) <small>(注:監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部等、「建設大臣」は建設大臣官房官庁営繕部を示す)</small>
	②建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとする事ができる。(評価名簿によるもの) 床型枠用鋼製デッキプレート(ワットパット)、鉄骨下無収縮モルタル、無収縮グラウト材(アレックス型、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁器質タイル(陶器質タイル、せり器質タイル、磁器質タイル、再生材利用タイル)、既製調合モルタル(タイル工用)、既製調合目地材、ルーフトレイ、吸水調整材(タイル用)、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類(シリンダ錠錠、レバー錠)、シリンダ錠)、クローザー類(ドアクローザー、ヒンジクローザー、ドアロック)、自動扉機構(制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置)、自閉式上吊り引戸機構(手動開き式)、重量シャッター、軽量シャッター、オバーヘッドドア、ガラス(フロートガラス、型板ガラス、網入板ガラス、線入板ガラス、熱線吸収ガラス、倍強度ガラス、熱線反射ガラス)、ガラスブロック(中空)、防水剤、ビニル床シート、ビニル床タイル、現場発泡断熱材、クリアケリア(3000N、5000N)、可動間仕切り、移動間仕切り(スライドドア)、トイレス、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム(屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム)、トップライト、エゴキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、鋼鉄製マンホール蓋・弁拵ふた
	③特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	4 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速 (Vo) 3 2 (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地表面粗度区分 多雪地域の指定 なし あり
	⑤現場代理人	本工事の施工にあたっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、請負者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。
	⑥工事工程報告	月報は毎月20日以前、25日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週(火)曜日に提出する。
	⑦工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する (適用事項は、入札説明書による) 適用しない
	8 施工体制台帳等の作成 (1.1.5)	請負者は、請負金額3千万円以上(建築一式工事については4千5百万円以上)の工事について、施工体制台帳(下請契約書等添付)及び施工体系図を作成し、監督職員に提出しなければならない。 請負者は、工事完成時に、建退共運営実績報告書を提出しなければならない。
	9 設備工事との取合い	施工範囲 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
	10 施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。 施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。
	⑪工事写真 (1.2.4)	工事写真の撮り方(改訂2版)建築編(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)によるほかは監督職員の指示による。 下記のを監督職員に提出する。
	12 電気保安技術者	適用する 適用しない
	⑬施工条件 (1.3.5)	現場説明事項書による。
	⑭発生材の処理等 (1.3.8)	引渡しを要するもの () 現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの () 指定副産物の搬出 詳細は現場説明書による アスファルトコンクリート塊 セメントコンクリート塊 建設発生木材 指定副産物の処分地 詳細は現場説明書による 指定地処分 () 自由処分 (最寄りの再資源化施設へ搬出すること) 指定副産物以外の搬出 構外搬出適切処理 () 特別管理産業廃棄物の処理 廃石綿等 P C B を含む機器類 P C B 含有シーリング 廃油 廃酸・廃アルカリ (臭化リチウム 蓄電池電解液) S F 6 ガス使用機器 廃石綿の処分地 (東京都環境保全公社瑞穂センター) P C B 含有シーリング材の分析調査 行う (箇所) 行わない P C B 含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 蛍光灯ランプ H I D ランプ 硬質塩化ビニル管・継手 処理計画書等の提出 再生資源利用促進計画書、実施書を「CREDAS入力システム」により作成し、提出用ファイルを保存したCDと共に提出する。 建設発生土及び建設副産物処理計画書、報告書 を提出する。 マニフェスト制度 産業廃棄物管理票(マニフェスト)制度により、適正な処理を行うこと。 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	15 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)	既存破壊部分の補修方法 図示
	⑯技能士 (1.6.2)	(1.6.2)
	17 施工の検査等 (1.6.5)	適用する (適用事項は、現場説明事項書による) 適用しない
	18 化学物質の濃度測定 (1.6.9)	作成する (提出部数 2部 部) 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明事項書による。
	19 完成図 (1.8.2)	作成する (提出部数 2部 部) 作成しない 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 建物を使用する上での注意事項 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。
	20 安全に関する資料 (1.8.3)	作成する (提出部数 2部 部) 作成しない 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 建物を使用する上での注意事項 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。
	⑰足場その他 (2.2.1)	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 A種 B種 C種 D種 (表2.2.1) 内部足場 脚立、足場板等 図示 防護シート等 防音パネル 防音シート 養生シート ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 A種 B種 C種 D種 E種 (表2.2.2) 足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省 基発第0424001号)」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。
	⑱既存部分の養生 (2.3.1)	既存部分の養生 行う (ビニールシート) 行わない 既存家具等の養生 行う (ビニールシート) 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 行う 行わない 養生の方法 取り外しのうえ清掃 保管場所 室内にてカバー掛の上、適切保管 家具の移動 行う (適宜) 行わない
	3 仮設間仕切り (2.3.2)	設ける (図示) A種 B種 C種 設けない

章	項目	特記事項																																																																				
2 仮設工事	4 監督職員事務所 (2.4.1)	規模 10m ² 程度 20m ² 程度 35m ² 程度 65m ² 程度 100m ² 程度 仕上 床 合板張り素地 ビニル床シート敷き 床下コンクリート敷き 内壁、天井 合板又は石膏ボード張り、合成樹脂珪藻土ボード塗り 屋根 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板張り 鉄板張り鋼合ボード塗り 休憩室 設けない 設ける(敷敷き) 備品 机 いす 書棚 黒板 製図板 掛時計 温度計 消火器 掃除具 加入電話機 懐中電灯 湯沸器 冷暖房機器 保護帽 ゴム長靴 雨がっぱ 衣類(5人分程度) 改修標準(平成19年版) 建築工事監理指針(平成19年版) 建築工事施工チェックシート 建築工事標準詳細図(平成17年版) 工事写真の撮り方(改訂2版)建築編																																																																				
	⑮工事用水	構内既存の施設 利用できない 利用できる (有償 無償)																																																																				
	⑯工事用電力	構内既存の施設 利用できない 利用できる (有償 無償)																																																																				
	7 仮囲い等	図示																																																																				
3 防水改修工事	1 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	保護防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 B 工法</td> <td>B-1 B-2</td> <td>表3.3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 1 B I 工法</td> <td>BI-1 BI-2</td> <td>表3.3.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>T 1 B I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A I 工法</td> <td>AI-1 AI-2</td> <td>表3.3.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A 工法</td> <td>A-1 A-2</td> <td>表3.3.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M 4 C 工法</td> <td>C-1 C-2</td> <td>表3.3.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D 工法</td> <td>D-1 D-2</td> <td>表3.3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 0 D 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 0 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D I 工法</td> <td>DI-1 DI-2</td> <td>表3.3.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 4 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 屋内防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 E 工法</td> <td>E-1 E-2</td> <td>表3.3.10</td> <td>家庭科棟各階便所</td> </tr> <tr> <td>P 2 E 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスファルトの種類 3種 アスファルトルーフィング 1500 粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) _____ mm 種別 非露出層防水用R種 改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) _____ mm 種別 露出層防水用R種 断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 ルーフィング類製造所の仕様による 絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) フラットヤーンクロス(70g/m ² 程度)(保護防水断熱工法) 押入金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0 立上がり部 保護コンクリート 適用する () 適用しない レンガ押入(JIS) コンクリート押入 珪藻土押入 () 乾式保護材 () 保護層 平場のコンクリート厚さ _____ mm こて仕上げ _____ mm 床タイル張り等仕上げ _____ mm 脱気装置 設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 伸縮調整目地 成形伸縮目地材 成形緩衝材 ルーフィング類製造所の指定品	種	別	防水層	施工箇所	P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3		P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4		T 1 B I 工法				P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5		P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6		種	別	防水層	施工箇所	M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7		M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8		P 0 D 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 0 D I 工法				M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9		M 4 D I 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所	P 2 E 工法			
	種	別	防水層	施工箇所																																																																		
	P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3																																																																			
	P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4																																																																			
	T 1 B I 工法																																																																					
	P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5																																																																			
	P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6																																																																			
	種	別	防水層	施工箇所																																																																		
	M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7																																																																			
	M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8																																																																			
	P 0 D 工法																																																																					
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 0 D I 工法																																																																						
M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9																																																																				
M 4 D I 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所																																																																			
P 2 E 工法																																																																						
1 アスファルト防水 (3.3.2)	保護防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 B 工法</td> <td>B-1 B-2</td> <td>表3.3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 1 B I 工法</td> <td>BI-1 BI-2</td> <td>表3.3.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>T 1 B I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A I 工法</td> <td>AI-1 AI-2</td> <td>表3.3.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A 工法</td> <td>A-1 A-2</td> <td>表3.3.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M 4 C 工法</td> <td>C-1 C-2</td> <td>表3.3.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D 工法</td> <td>D-1 D-2</td> <td>表3.3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 0 D 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 0 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D I 工法</td> <td>DI-1 DI-2</td> <td>表3.3.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 4 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 屋内防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 E 工法</td> <td>E-1 E-2</td> <td>表3.3.10</td> <td>家庭科棟各階便所</td> </tr> <tr> <td>P 2 E 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスファルトの種類 3種 アスファルトルーフィング 1500 粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) _____ mm 種別 非露出層防水用R種 改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) _____ mm 種別 露出層防水用R種 断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 ルーフィング類製造所の仕様による 絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) フラットヤーンクロス(70g/m ² 程度)(保護防水断熱工法) 押入金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0 立上がり部 保護コンクリート 適用する () 適用しない レンガ押入(JIS) コンクリート押入 珪藻土押入 () 乾式保護材 () 保護層 平場のコンクリート厚さ _____ mm こて仕上げ _____ mm 床タイル張り等仕上げ _____ mm 脱気装置 設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 伸縮調整目地 成形伸縮目地材 成形緩衝材 ルーフィング類製造所の指定品	種	別	防水層	施工箇所	P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3		P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4		T 1 B I 工法				P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5		P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6		種	別	防水層	施工箇所	M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7		M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8		P 0 D 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 0 D I 工法				M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9		M 4 D I 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所	P 2 E 工法				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3																																																																				
P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4																																																																				
T 1 B I 工法																																																																						
P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5																																																																				
P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6																																																																				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7																																																																				
M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8																																																																				
P 0 D 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 0 D I 工法																																																																						
M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9																																																																				
M 4 D I 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所																																																																			
P 2 E 工法																																																																						
1 アスファルト防水 (3.3.2)	保護防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 B 工法</td> <td>B-1 B-2</td> <td>表3.3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 1 B I 工法</td> <td>BI-1 BI-2</td> <td>表3.3.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>T 1 B I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A I 工法</td> <td>AI-1 AI-2</td> <td>表3.3.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A 工法</td> <td>A-1 A-2</td> <td>表3.3.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M 4 C 工法</td> <td>C-1 C-2</td> <td>表3.3.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D 工法</td> <td>D-1 D-2</td> <td>表3.3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 0 D 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 0 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D I 工法</td> <td>DI-1 DI-2</td> <td>表3.3.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 4 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 屋内防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 E 工法</td> <td>E-1 E-2</td> <td>表3.3.10</td> <td>家庭科棟各階便所</td> </tr> <tr> <td>P 2 E 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスファルトの種類 3種 アスファルトルーフィング 1500 粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) _____ mm 種別 非露出層防水用R種 改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) _____ mm 種別 露出層防水用R種 断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 ルーフィング類製造所の仕様による 絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) フラットヤーンクロス(70g/m ² 程度)(保護防水断熱工法) 押入金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0 立上がり部 保護コンクリート 適用する () 適用しない レンガ押入(JIS) コンクリート押入 珪藻土押入 () 乾式保護材 () 保護層 平場のコンクリート厚さ _____ mm こて仕上げ _____ mm 床タイル張り等仕上げ _____ mm 脱気装置 設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 伸縮調整目地 成形伸縮目地材 成形緩衝材 ルーフィング類製造所の指定品	種	別	防水層	施工箇所	P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3		P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4		T 1 B I 工法				P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5		P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6		種	別	防水層	施工箇所	M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7		M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8		P 0 D 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 0 D I 工法				M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9		M 4 D I 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所	P 2 E 工法				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3																																																																				
P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4																																																																				
T 1 B I 工法																																																																						
P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5																																																																				
P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6																																																																				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7																																																																				
M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8																																																																				
P 0 D 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 0 D I 工法																																																																						
M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9																																																																				
M 4 D I 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所																																																																			
P 2 E 工法																																																																						
1 アスファルト防水 (3.3.2)	保護防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 B 工法</td> <td>B-1 B-2</td> <td>表3.3.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 1 B I 工法</td> <td>BI-1 BI-2</td> <td>表3.3.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>T 1 B I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A I 工法</td> <td>AI-1 AI-2</td> <td>表3.3.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 2 A 工法</td> <td>A-1 A-2</td> <td>表3.3.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M 4 C 工法</td> <td>C-1 C-2</td> <td>表3.3.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D 工法</td> <td>D-1 D-2</td> <td>表3.3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P 0 D 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 0 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 3 D I 工法</td> <td>DI-1 DI-2</td> <td>表3.3.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>M 4 D I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 屋内防水工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種</th> <th>別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P 1 E 工法</td> <td>E-1 E-2</td> <td>表3.3.10</td> <td>家庭科棟各階便所</td> </tr> <tr> <td>P 2 E 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスファルトの種類 3種 アスファルトルーフィング 1500 粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) _____ mm 種別 非露出層防水用R種 改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) _____ mm 種別 露出層防水用R種 断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) 2.5 mm 材質 ルーフィング類製造所の仕様による 絶縁用シート ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) フラットヤーンクロス(70g/m ² 程度)(保護防水断熱工法) 押入金物 アルミニウム製 L-30×15×2.0 立上がり部 保護コンクリート 適用する () 適用しない レンガ押入(JIS) コンクリート押入 珪藻土押入 () 乾式保護材 () 保護層 平場のコンクリート厚さ _____ mm こて仕上げ _____ mm 床タイル張り等仕上げ _____ mm 脱気装置 設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所 / m ²) 伸縮調整目地 成形伸縮目地材 成形緩衝材 ルーフィング類製造所の指定品	種	別	防水層	施工箇所	P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3		P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4		T 1 B I 工法				P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5		P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6		種	別	防水層	施工箇所	M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7		M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8		P 0 D 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 0 D I 工法				M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9		M 4 D I 工法				種	別	防水層	施工箇所	P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所	P 2 E 工法				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 B 工法	B-1 B-2	表3.3.3																																																																				
P 1 B I 工法	BI-1 BI-2	表3.3.4																																																																				
T 1 B I 工法																																																																						
P 2 A I 工法	AI-1 AI-2	表3.3.5																																																																				
P 2 A 工法	A-1 A-2	表3.3.6																																																																				
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
M 4 C 工法	C-1 C-2	表3.3.7																																																																				
M 3 D 工法	D-1 D-2	表3.3.8																																																																				
P 0 D 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 0 D I 工法																																																																						
M 3 D I 工法	DI-1 DI-2	表3.3.9																																																																				
M 4 D I 工法																																																																						
種	別	防水層	施工箇所																																																																			
P 1 E 工法	E-1 E-2	表3.3.10	家庭科棟各階便所																																																																			
P 2 E 工法																																																																						

京丹波町

株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所

一級建築士 第125552号 内田 清次

11年 06月 日

施設名

京丹波町和知支所

工事名

屋根改修工事

図名

建築改修工事特記仕様書-1

縮尺

-

図面 12枚の内

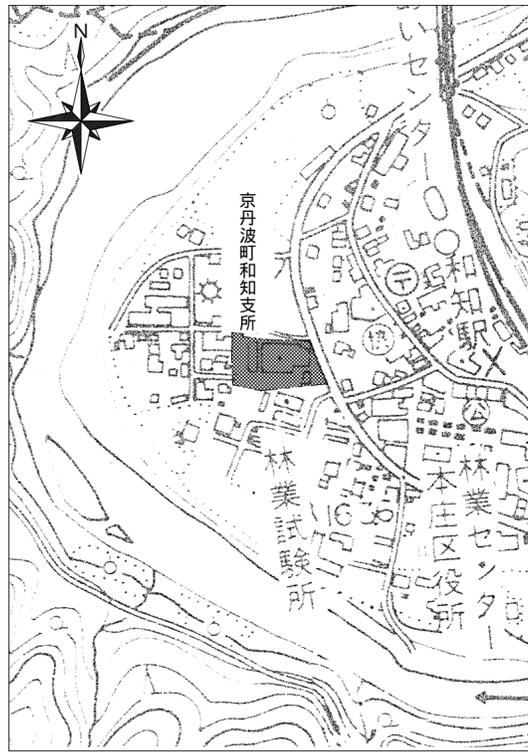
No. A-02

主任

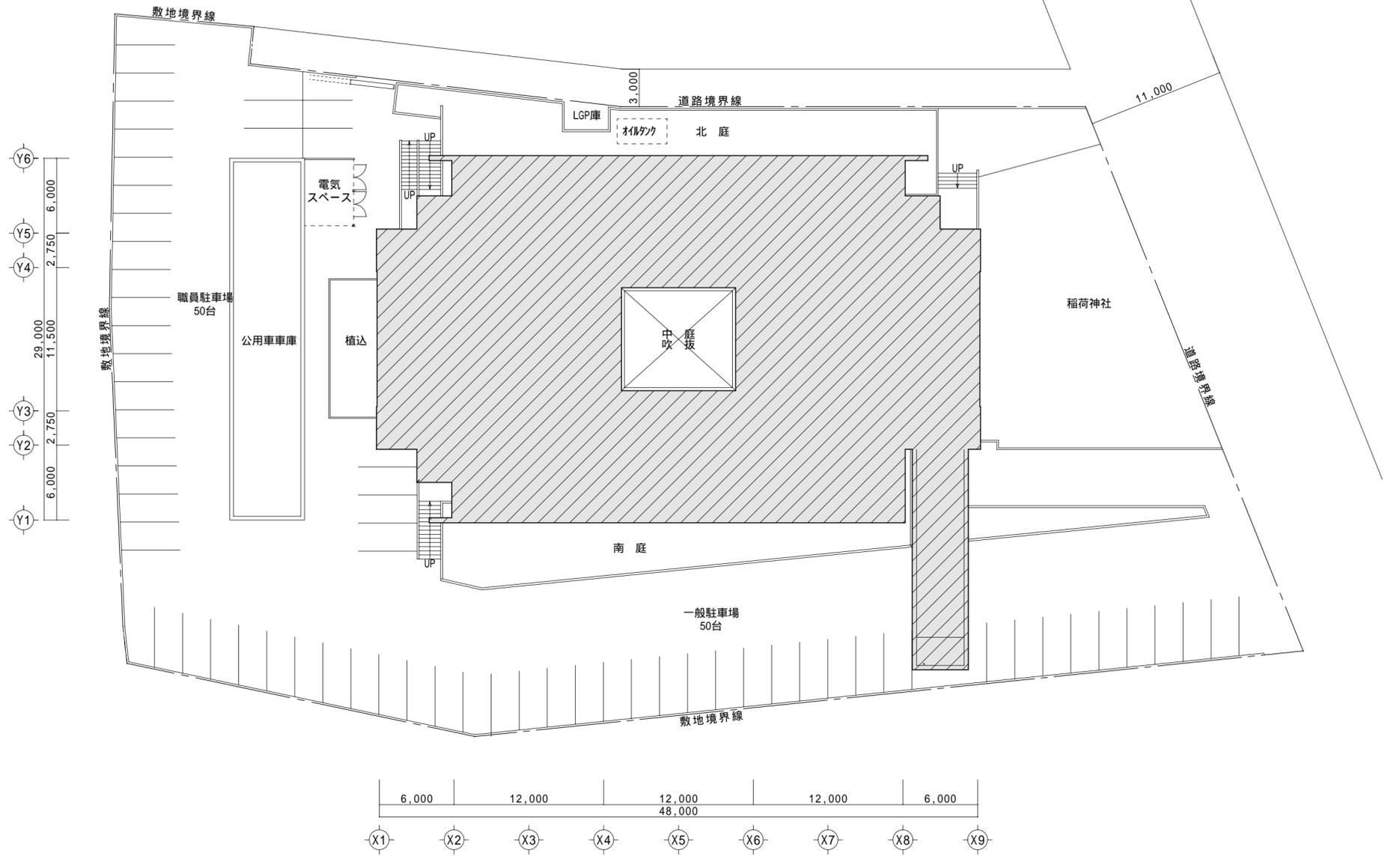
主査

検図

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項		
3	防水改修工事	②改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	露出防水密着工法				3	防水改修工事	9	とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)	目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 幅20mm以上、深さ10mm以上 ガラス回りの目地 幅5mm以上、深さ5mm以上 その他の目地 幅10mm以上、深さ10mm以上	シーリングの試験 簡易接着性試験 (部位 _____) 引張接着性試験 (部位 _____)	外とい(外気に接するとい)	材 質			その他	ルーフトレイン等 鋳鉄製	軒とい 硬質塩化ビニル製(角形) (前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm	たてとい 硬質塩化ビニル管(VP) (カラー) 径100.75mm	谷とい	とい受け金物 亜鉛メッキ鋼板
			種 別 防水層 施 工 箇 所											種 別 材 質								
			M 4 A S 工法	AS-1 AS-2	表3.4.1	屋根平面及び立上り(図示)								ルーフトレイン等	鋳鉄製	その他						
			M 3 A S 工法	AS-4 AS-5	表3.4.2									軒とい	硬質塩化ビニル製(角形)	(前高) 巾120mm (カラー) 巾150mm						
			P 0 A S 工法	AS-3										たてとい	硬質塩化ビニル管(VP)	(カラー) 径100.75mm						
			露出防水絶縁工法											内とい(V.P管は使用しない)								
			種 別 防水層 施 工 箇 所											材 質								
			M 3 A S I 工法	ASI-1	表3.4.3									たてとい及び横走り管	SGP	径 75mm						
			M 4 A S I 工法	ASI-2										とい受け金物	亜鉛メッキ鋼板							
			P 0 A S I 工法											防露巻き	改修標仕表3.8.5による	F						
断熱材(露出防水絶縁断熱工法) 厚さ(mm) 材質 改質アスファルトシート製造所の仕様による				掃除口を設ける(開放性のある自転車置き場のといを除く) 養生鉄管を設ける(径 120 厚さ 長さ 1600(SGP)) 既存といの撤去及び養生 () 鋼管製といの防露巻 (表3.8.4) たてとい受金物(表3.9.1)																		
仕上げ塗料 加- () 減A-				種 類 板厚(mm) 表面処理 固定間隔 備 考																		
脱気装置 設ける 材種(スルス製) 設置数量(1箇所/ _____㎡)				250 形 1.6 A-1種(無着色) 1.3 m程度 押出形材 曲げ材																		
防湿層 設ける 設けない				300 形 1.8 A-2種(着色) 隅角部及び突当たり部等の役																		
改質アスファルト 下地に部分的に溶着又は接着させる場合 施工法 ()				350 形 2.0 B-1種(無着色) B-2種(着色)																		
種 別 防水層 施 工 箇 所				曲げ材 2.0																		
P 0 S 工法 S(1)-F1(t- 1.2)				建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。																		
S 4 S 工法 PC部材入隅増強(有り無し)																						
P 0 S I 工法 S(1)-F2(t- 2.0)																						
S 4 S I 工法 S(1)-M1(t- 1.5)																						
S(1)-M2(t- 1.5)																						
S(1)-M3(t- 1.2)																						
S 3 S 工法 S(1)-F1(t- 1.2)																						
S 3 S I 工法 PC部材入隅増強(有り無し)																						
M 4 S 工法 S(1)-M1(t- 1.5)																						
M 4 S I 工法 S(1)-M2(t- 1.5)																						
S(1)-M3(t- 1.2)																						
断熱材 用いる (厚さ(mm)、種類)																						
PCコンクリート部材下地の場合の目地処理																						
絶縁用シート 発泡ポリエチレンシート																						
仕上げ塗料 加- () 減A-																						
脱気装置 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ _____㎡)																						
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 アンカーブラッグ引抜試験 (シート防水工事着手前 3箇所以上)																						
シート防水改修工法 機械的固定工法 厚1.5(種別:S-M2・S1-M2) 材 料: 柳平川ゴム(サンタック1B) (株)日商商事(サーナルーフ) (株)デックブルーフィング(DPルーフシート)又は同等品以上																						
種 別 防水層 施 工 箇 所																						
P 0 X 工法 X-1																						
L 4 X 工法 X-2																						
脱気装置 設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ _____㎡)																						
種 別 防水層 施 工 箇 所																						
P 1 Y 工法 Y-2																						
P 2 Y 工法 _____																						
脱気装置 設ける 設けない																						
水張り試験を行う (屋内 屋外)																						
④塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)																						
⑥保証書 請負業者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)																						
⑦施工標識 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 真鍮製エッチング仕上 150×100 設置数量 (1) 箇所																						
⑧シーリング (3.7.1) ~ (3.7.8)																						
シーリング材の種類 改修標仕表3.7.1による																						
シーリング改修工法及び施工箇所																						
改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所																						
シーリング充填工法 図示のとおり																						
シーリング再充填工法 図示のとおり																						
拡幅シーリング充填工法																						
ブリッジ工法																						



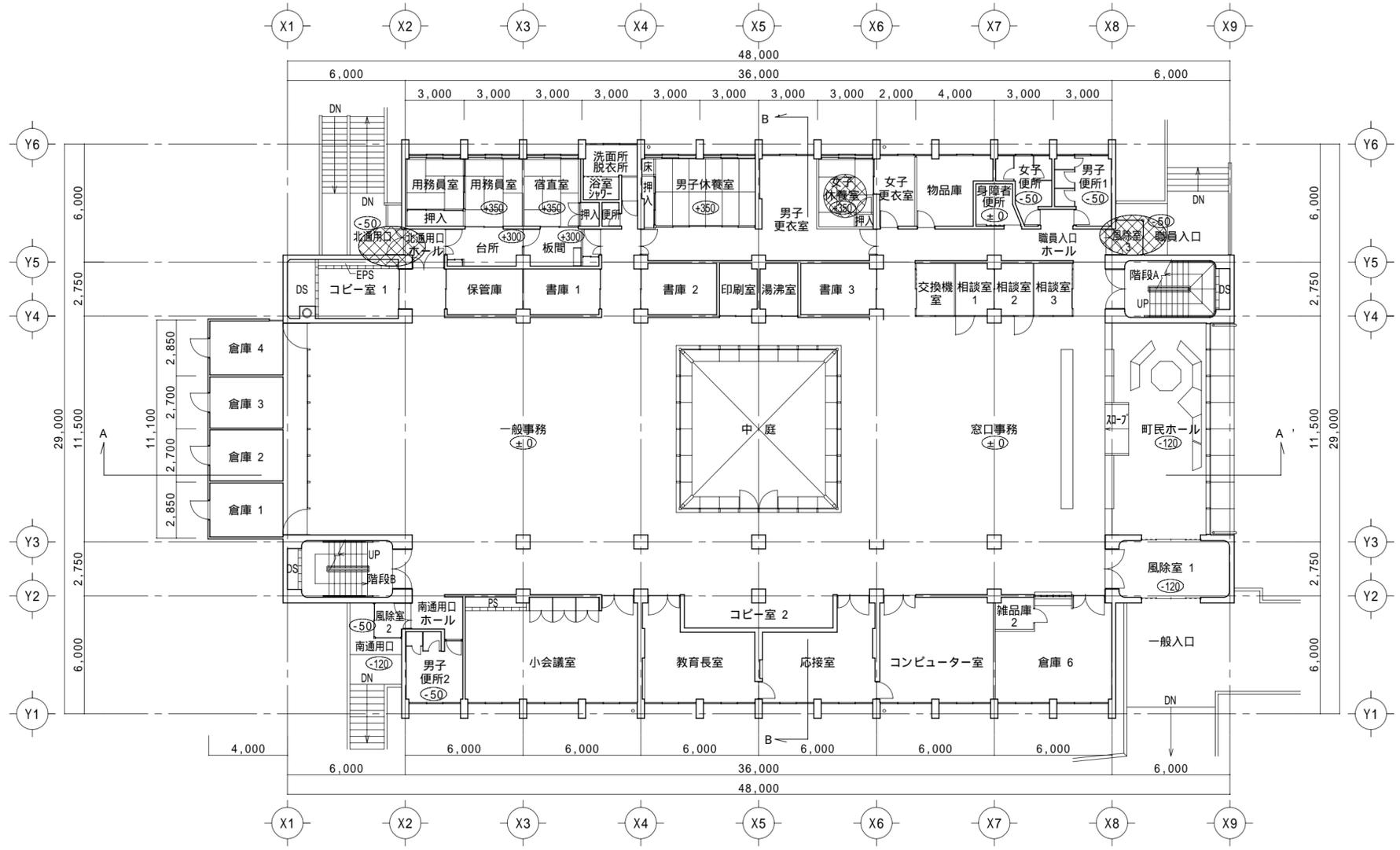
附近見取図 1/5000



配置図 1/300

凡 例	
	工事建築物を示す

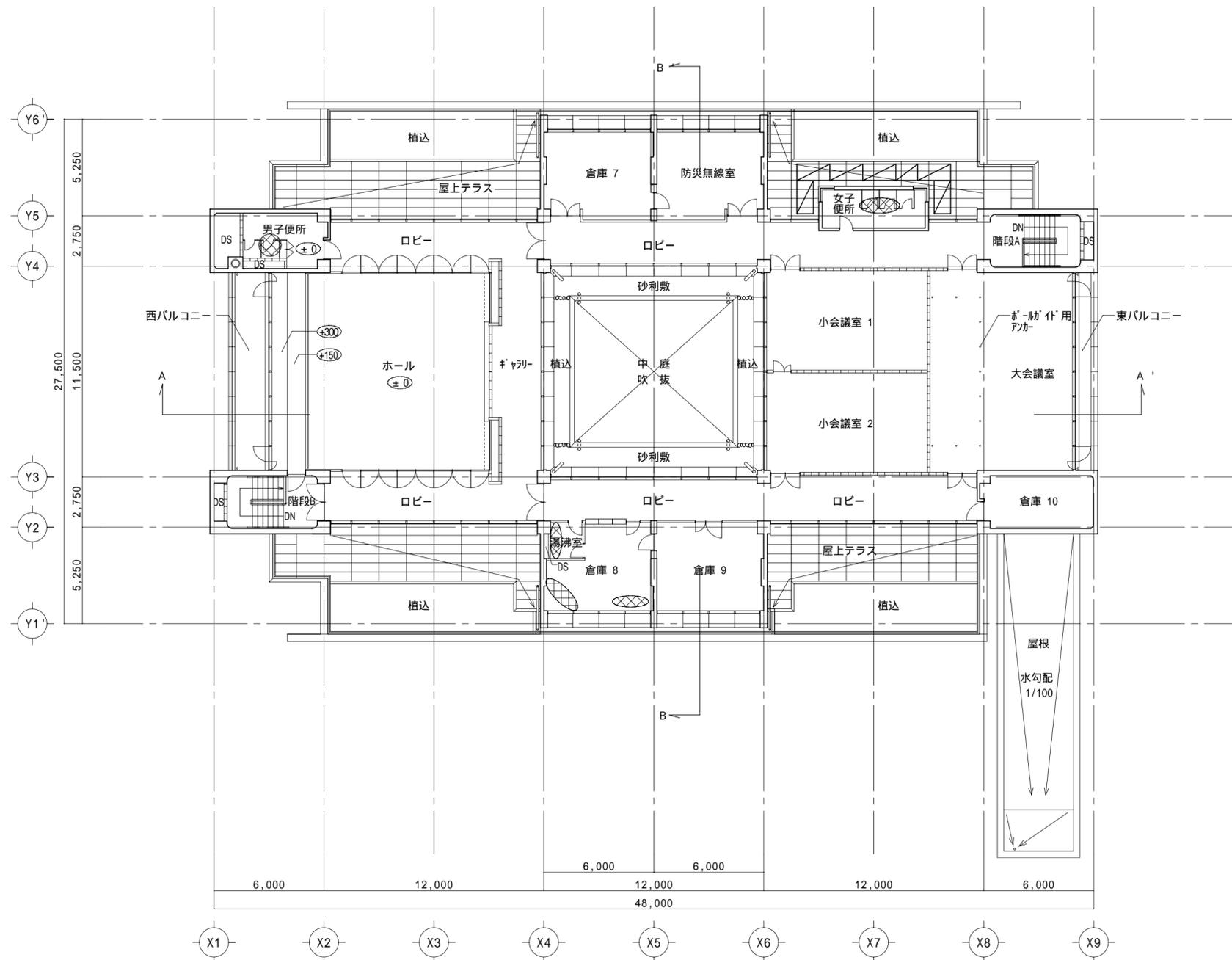
京丹波町	主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次	11年 06月 日	施設名	京丹波町和知支所	図名	附近見取図・配置図	図面	12枚の内
						工事名	屋根改修工事	縮尺	1/5,000 1/300	No.	A-04



1階平面図 1/200

凡 例	
	漏水箇所を示す
	断面位置を示す

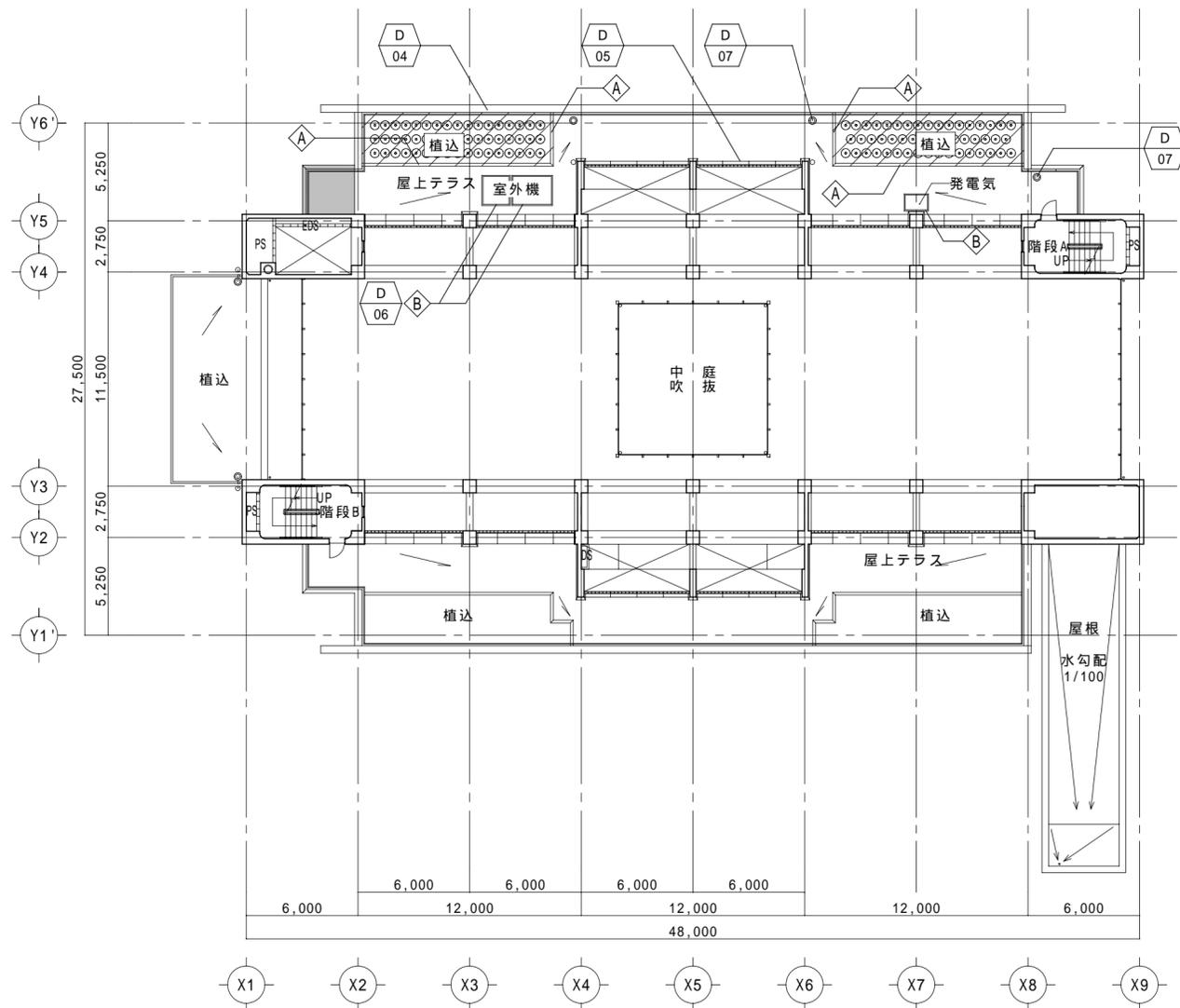
京丹波町	主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次	施設名	京丹波町和知支所	図名	1階平面図	図面 12枚の内 No. A-05
					工事名	屋根改修工事	縮尺	1/200	



2階平面図 1/200

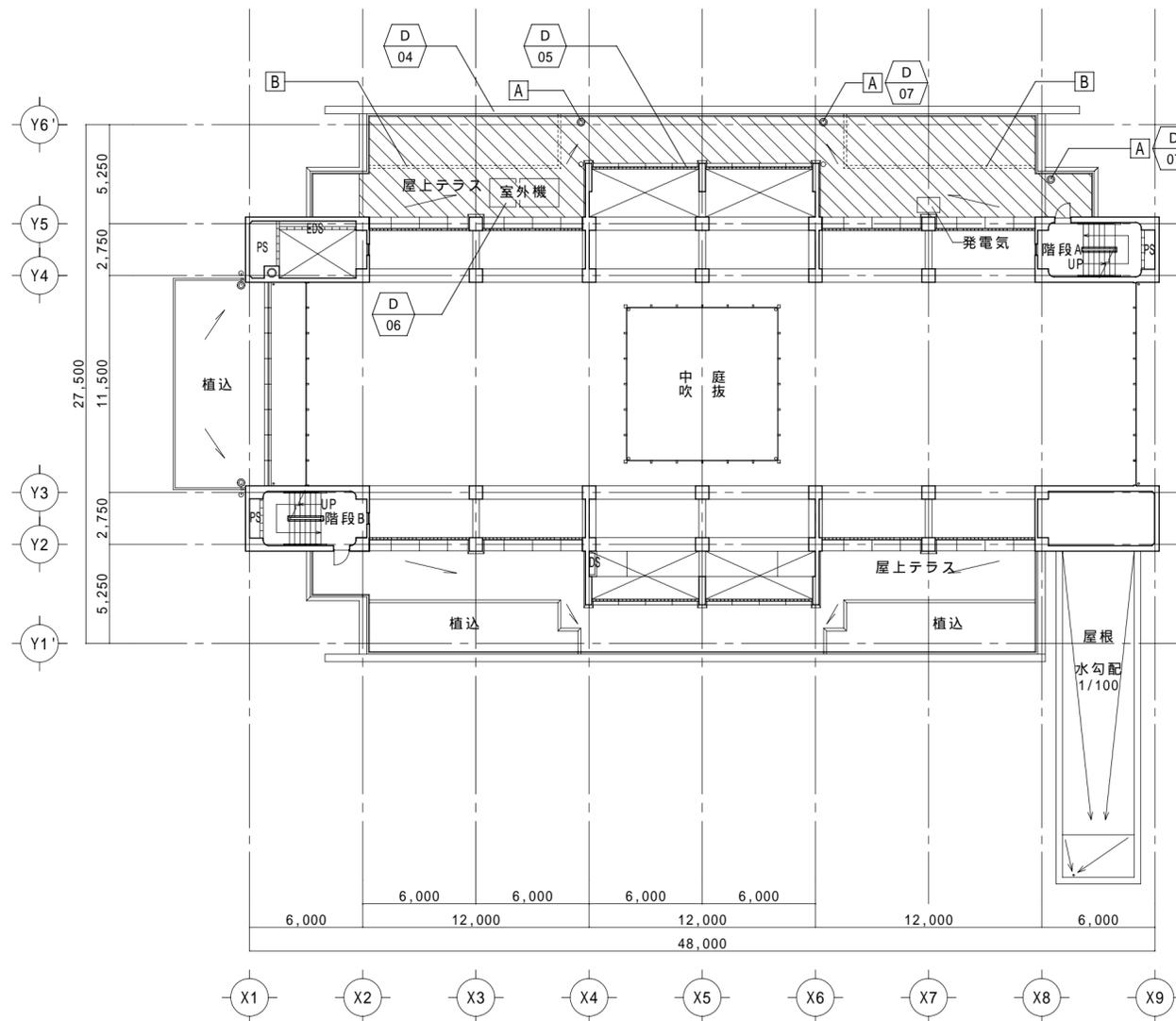
凡 例	
	漏水箇所を示す
	断面位置を示す
	枠組み足場W=900を示す。(H'が'外高さ6,170)
防水材等の荷揚げはレッカー作業とする。	

京丹波町					主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次 11年 06月 日	施設名 京丹波町和知支所	図名 2階平面図兼仮設計画図	図面 12枚の内
								11年 06月 日	工事名 屋根改修工事	縮尺 1/200	No. A-06



現況中2階平面図 1/250

撤去凡例	
	コンクリート見切りの撤去
	設備基礎下敷きシート一部撤去
	植栽の撤去 H=1.0m・101本 (肥土厚300・敷き砂利厚100含む)
	撤去範囲を示す
	部分詳細図の番号を示す
	22年度防水改修済部分を示す



改修中2階平面図 1/250

改修凡例	
	改修用ドレインの新設
	既存撤去跡モルタルW=200補修
	屋外防水改修対象範囲を示す ウレタン塗膜防水
	部分詳細図の番号を示す

京丹波町

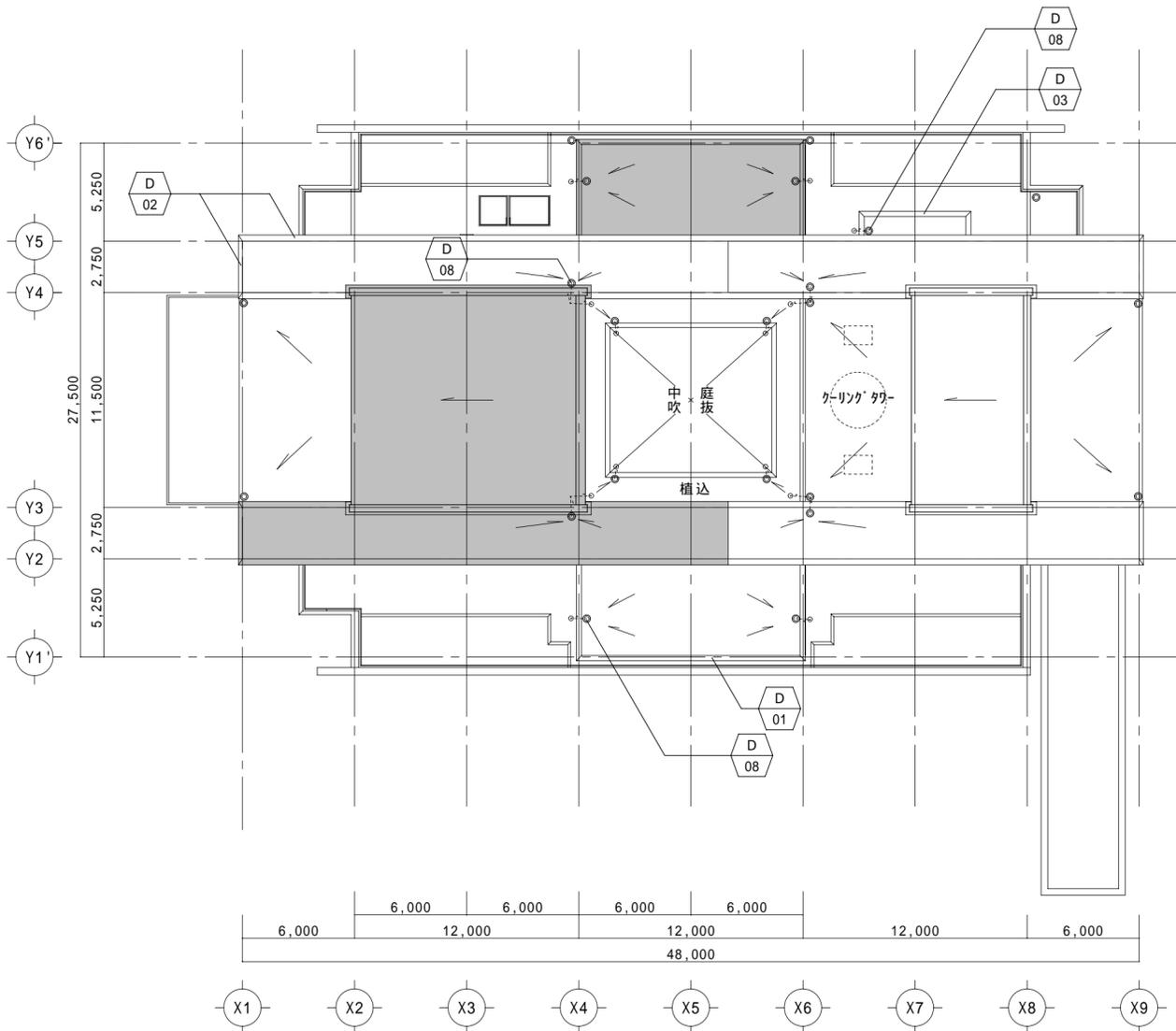
主任 主査 検図

株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所
一級建築士 第125552号 内田 清次 11年 06月 日

施設名 京丹波町和知支所
工事名 屋根改修工事

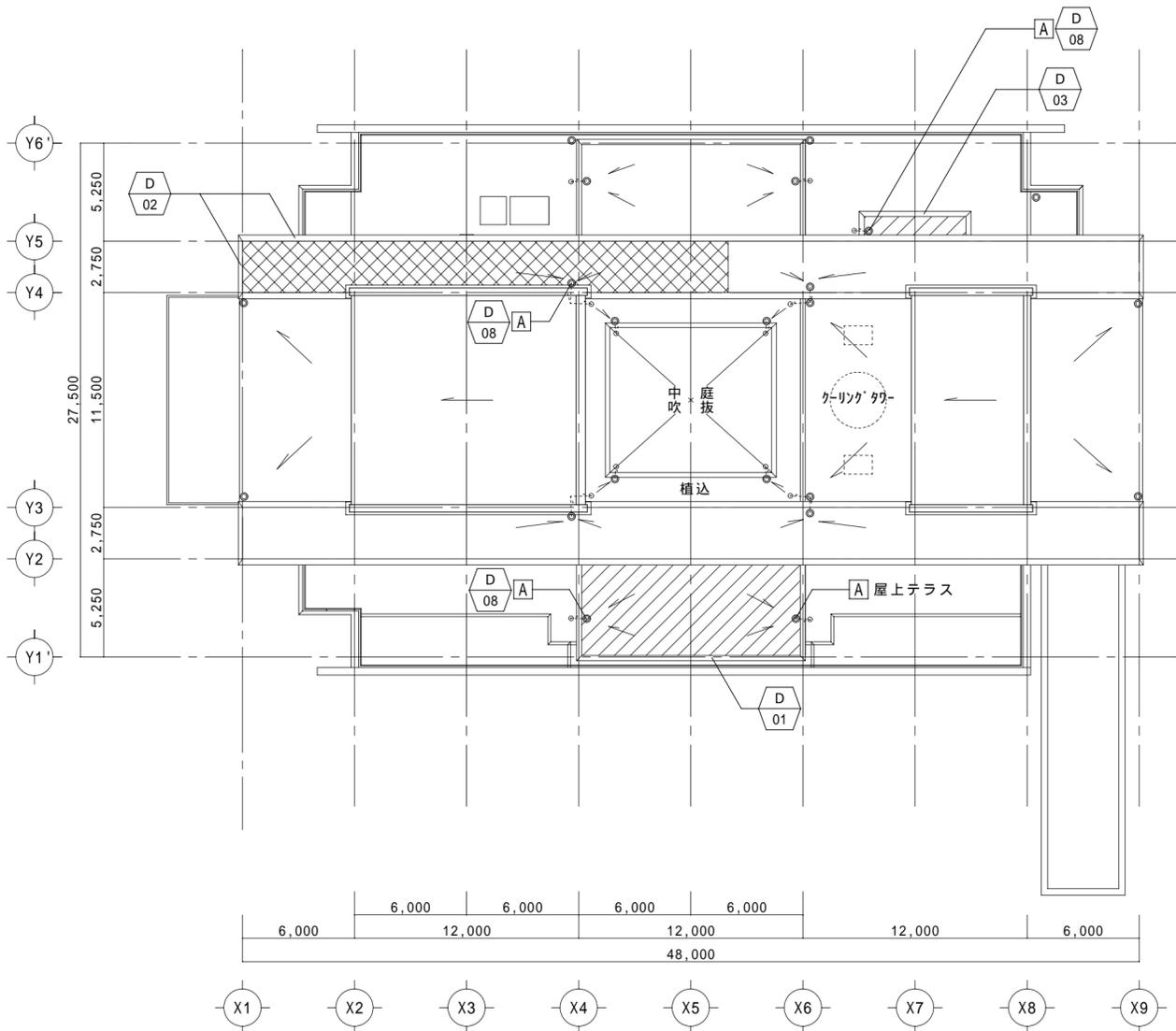
図名 中2階平面図(現況図・改修図)
縮尺 1/250

図面 12枚の内
No. A-07



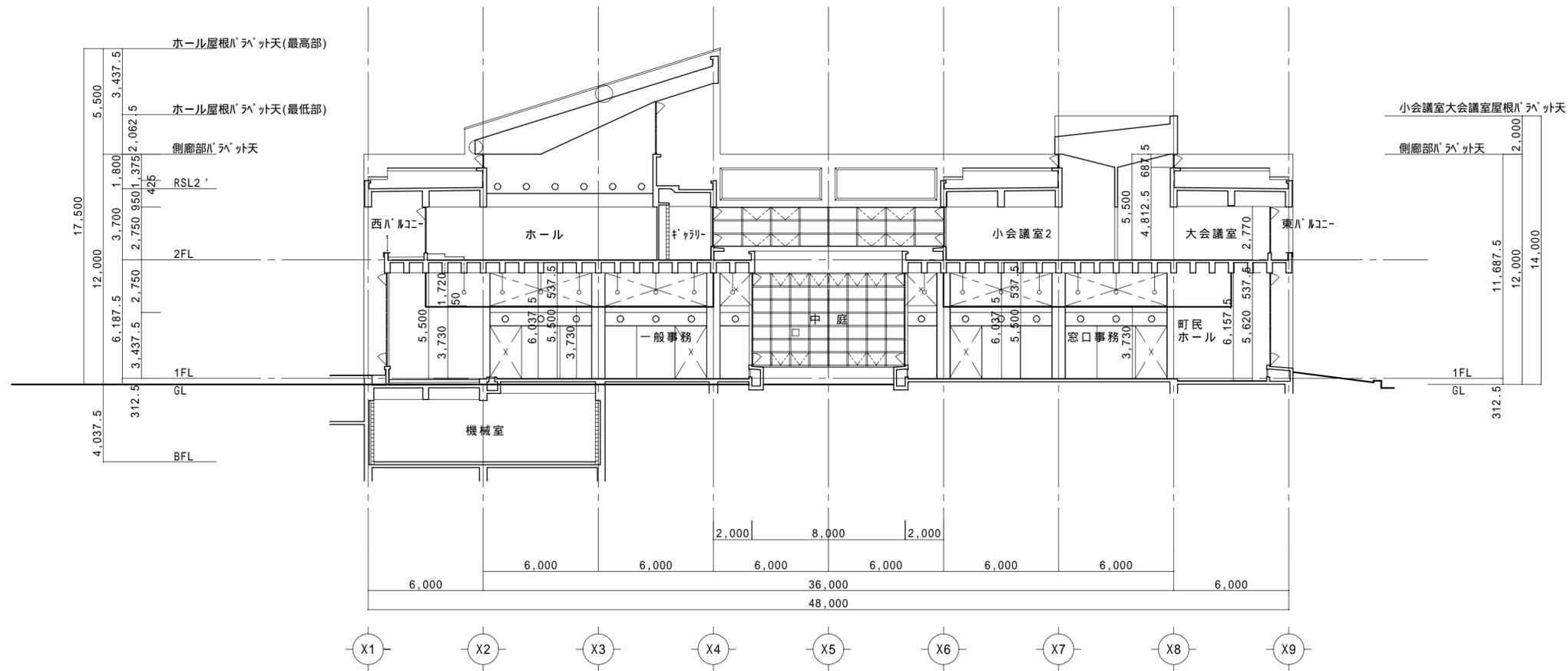
現況屋根伏図 1/250

撤去凡例	
	部分詳細図の番号を示す
	22年度防水改修済部分を示す

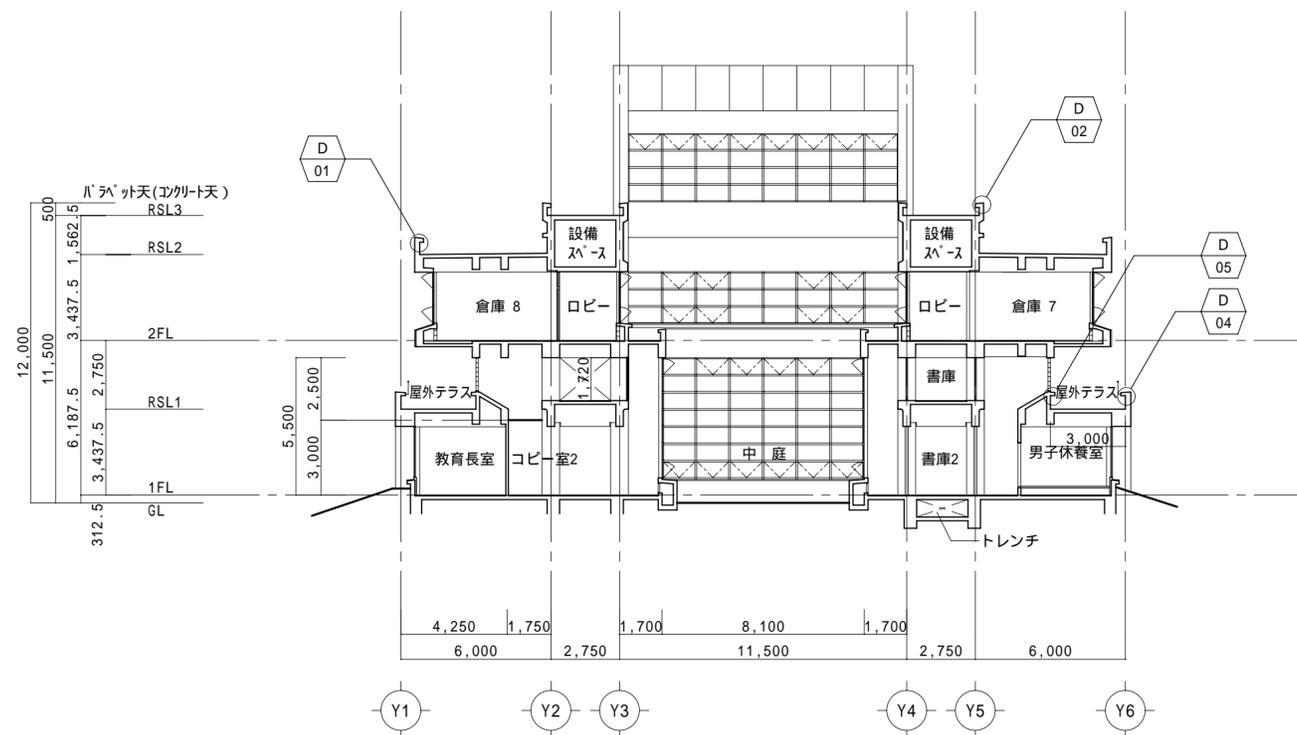


改修屋根伏図 1/250

改修凡例	
	改修用ドレインの新設
	屋外防水改修対象範囲を示す 改質アスファルトシート防水
	屋外防水改修対象範囲を示す 合成高分子ルーフィングシート防水
	部分詳細図の番号を示す



A - A ' 断面図 1/200

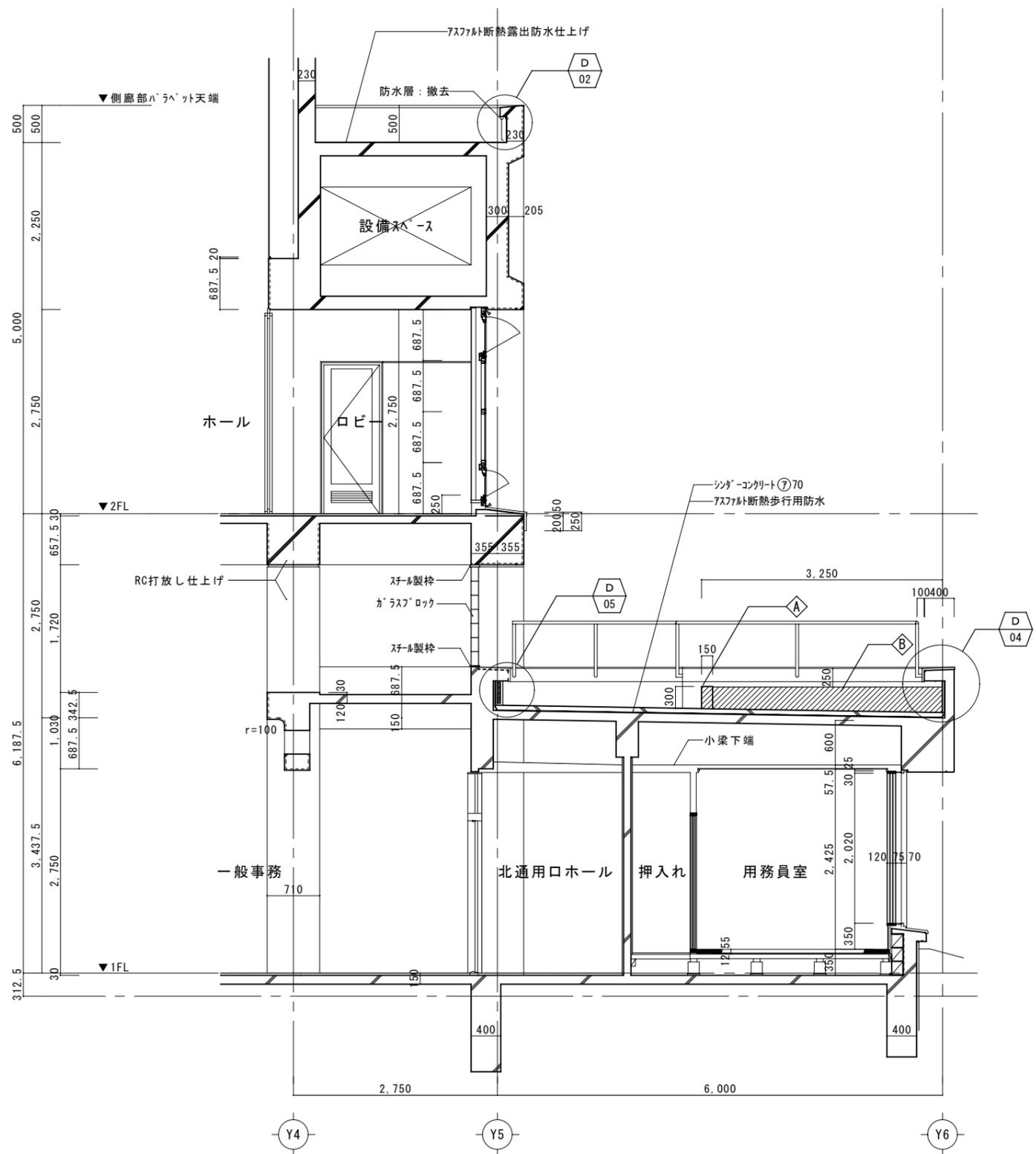


B - B ' 断面図 1/200

凡 例	
	部分詳細図の番号を示す

京丹波町					主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次 11年 06月 日	施設名 京丹波町和知支所	図名 屋根改修工事	縮尺 1/200	断面図	図面 12枚の内 No. A-09
------	--	--	--	--	----	----	----	---	-----------------	--------------	-------------	-----	-------------------------

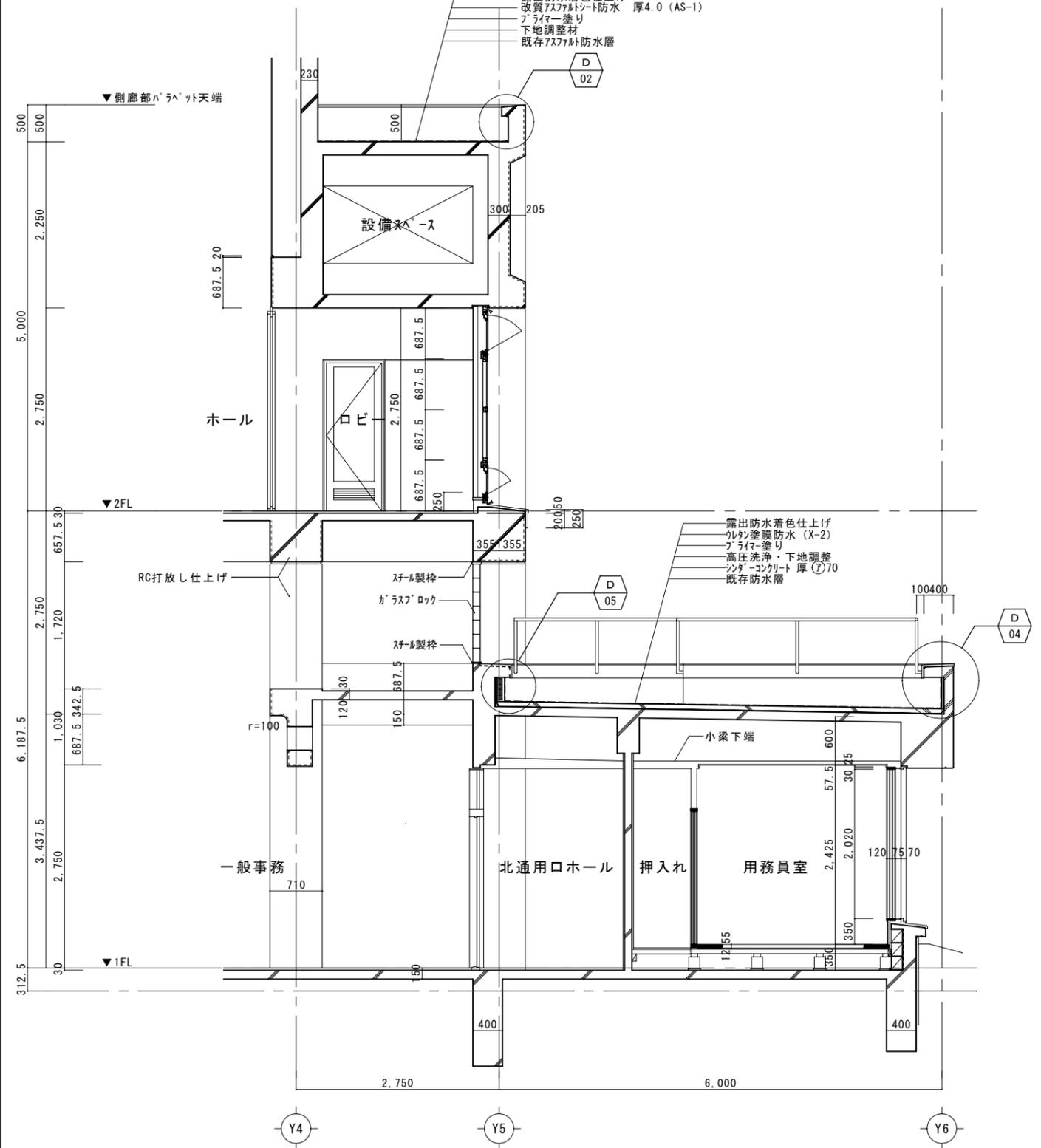
現況



A-A' 矩計図 1/50

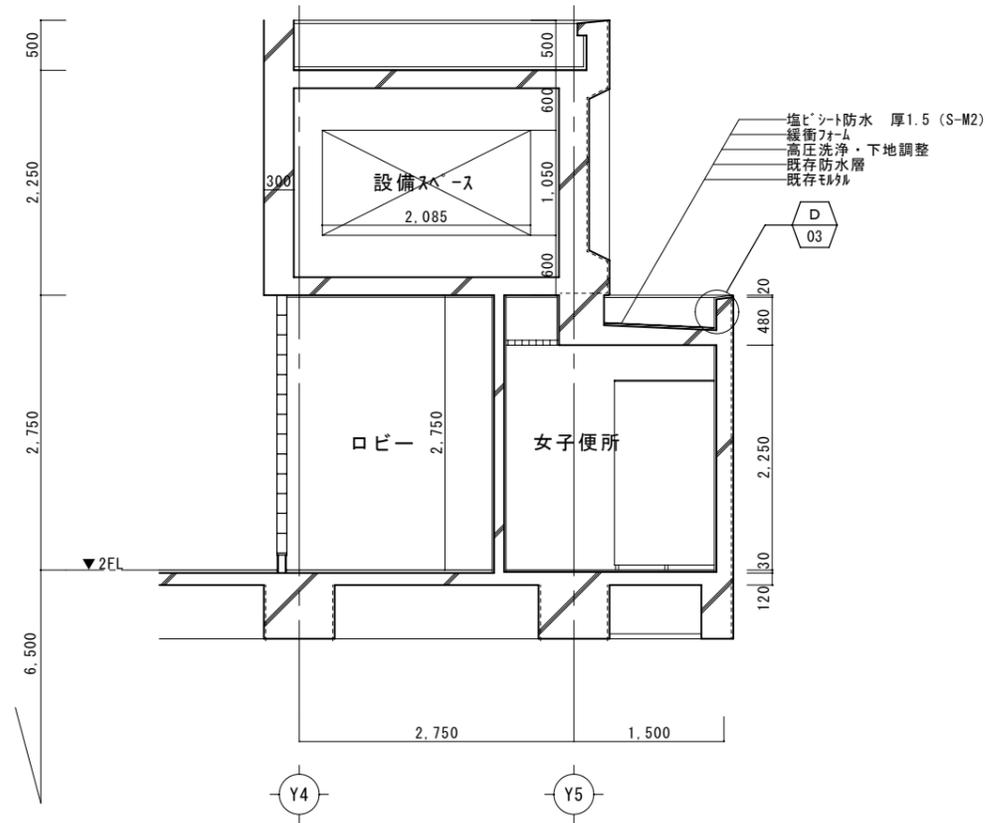
撤去凡例	
◇A	コンクリート見切りの撤去
◇B	植栽の撤去 H=1.0m・101本 (肥土厚300・敷き砂利厚100含む)
▨	撤去範囲を示す
◇※	部分詳細図の番号を示す

改修

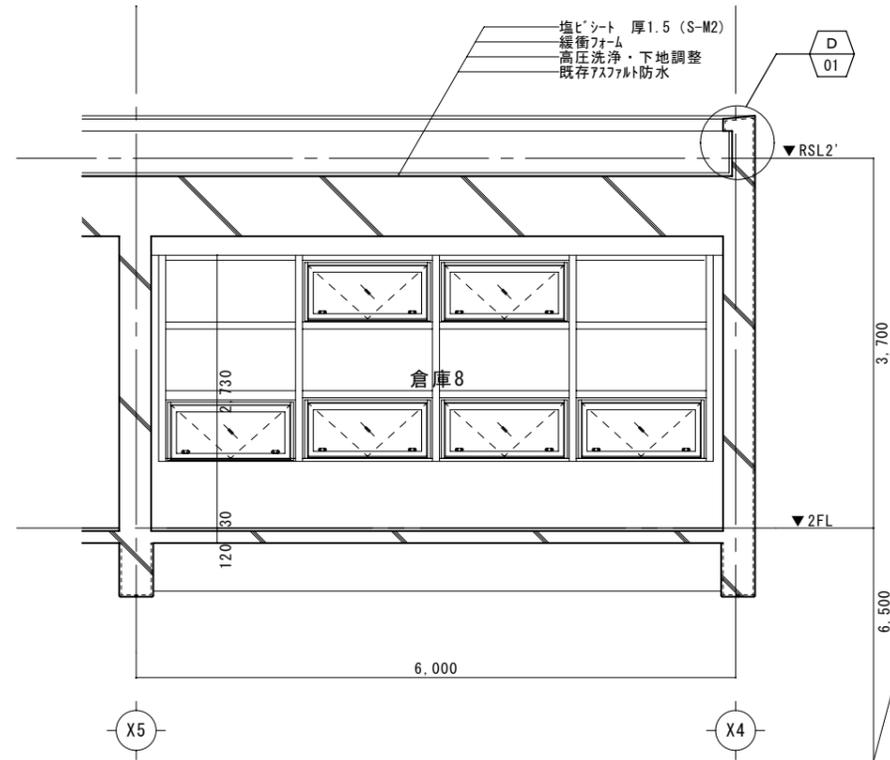


A-A' 矩計図 1/50

凡例	
◇※	部分詳細図の番号を示す



矩計図 2 1/50



矩計図 3 1/50

凡 例	
D ※	部分詳細図の番号を示す

京丹波町	主任	主査	検図	株式会社 コム・キューブ 一級建築士事務所 一級建築士 第125552号 内田 清次	11年 06月 日	施設名	京丹波町和知支所	図名	矩計図	図面 12枚の内 No. A-11
						工事名	屋根改修工事	縮尺	1/50	

